

○議長（川崎和夫君） これより、村政一般に対する質問並びに提出案件に対する質疑を行います。

通告順に発言を許します。

5 番 明和善一郎君。

○5 番（明和善一郎君） おはようございます。

まず初めに、本日は東日本大震災から8年目を迎え、まだまだ復興には時間がかかる
と報道されていますが、犠牲になった方、避難生活をされている方々に心よりお悔やみ
とお見舞いを申し上げるところでございます。

それでは、通告しています3項目についてお聞きします。

最初に、新ハザードマップの制作についてお聞きします。

新年度予算の中で計画されています新ハザードマップの現況はどのようになっていますか。

県では、県下全域のマップづくりに作業が進められているとお聞きしましたが、末端
の安全を考えた場合、地元・地域の意見を酌み取った考えが重要になってくると思われ
ますが、どのようにお考えですか。

警報の発表の少ない舟橋村ですが、災害はいつ発生するかわかりません。昭和44年
の白岩川の氾濫のとき、もう1時間雨が続いたら、仏生寺地内の氾濫箇所が増大につな
がっていたのではと思われま。

100年、1,000年に一度発生するかもしれない洪水対策に対応できるマップづ
くり当たってもらいたく、村のお考えをお聞きします。

次に、街路樹の管理についてお聞きします。

過去にも街路樹の管理について、今後どのように進められるのかお聞きしていま
しが、再度、管理計画についてお聞きします。

オレンジロードの中学校グラウンド角交差点より東芦原動物病院角交差点までに植栽
されている街路樹（エンジュの木）は、当初植えられたときは33本でしたが、毎年数
本ずつ枯れ、現在生き残りは11本となっております。歩道の半分を専有している花壇
には枯れ株と雑草、ササの葉が覆い茂っています。11本の中には枯死寸前の物もあり、
今後どのように管理されるのかお聞きします。

次に、村医療の今後についてお聞きします。

村内には内科医院、歯科医院、接骨院がありますが、今月末で内科医院がやめられる

とお聞きしました。

地方創生の中で人口増対策に取り組みを強化されている時期、小学校児童や未就学児が増加しており、突然の発熱等の対応ができなくなり、不安が増大します。

なお、平成30年度1年間に舟橋分遣所の救急車が出動した件数は257件で、村内への出動は82件、そのうち18歳未満の搬送は9件、うち未就学児は5人とお聞きしました。内科医の廃業の影響は、救急活動にも影響するものと思われます。

また、高齢者人口が増えつつある現状を見たときに、高齢者の不安を取り除くためにも、内科系医師の確保や開業に向けた支援策についてお考えをお聞きします。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（川崎和夫君） 総務課長 松本良樹君。

○総務課長（松本良樹君） 5番明和議員のハザードマップに関する質問についてお答えいたします。

まず、現況でございますけれども、新年度で作成することとして、ただいま立山町と協議を進めておるところでございます。

先日、報道の中で常願寺川の氾濫について誤りがあったという報道がございました。この誤りといいますのは、平成28年6月に富山河川国道事務所が作成した常願寺川洪水浸水想定区域図を参考に、新たな洪水ハザードマップを作成しようとしている富山市から、浸水継続時間に関する問い合わせがあり、判明したものであります。

富山河川国道事務所におきまして浸水継続時間の計算過程を再度精査したところ、排水条件等の反映の仕方に誤りがあり、想定される浸水継続時間が現在表示されている時間より長期化する可能性があることが明らかとなり、当該事項については富山河川国道事務所において本年1月29日に公表されたものでございます。

本村も常願寺川洪水浸水想定区域に該当しますが、誤りのあった浸水継続時間については、今年度末までに修正・公表されるものとお聞きしております。

ご承知のとおり、本村では、平成31年度予算において、当該河川域を同じくする立山町と共同で洪水ハザードマップの改訂を行うこととしており、修正箇所公表後の作成となりますので、当該誤りに関しましては影響のないものと考えております。

しかしながら、新たな洪水ハザードマップは、災害に強い安全・安心なまちづくりを進める上で極めて重要な資料となるものでありますので、今後の作業手順において的確な調査を行い、より正確なマップの作成に取り組む所存でありますので、皆様方のご理

解とご協力を賜りますようお願いを申し上げまして、答弁いたします。

○議長（川崎和夫君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 5番明和議員の、街路樹の管理についてのご質問にお答えいたします。

現在、通称オレンジロードの歩道には、オレンジパーク側にソメイヨシノ、東芦原団地側にエンジュ、中学校近辺にはケヤキが植栽されております。

議員が指摘されました植樹帯で欠けている箇所につきましては、台風による倒木や枯れたために、車からの視界及び歩行者の安全面を考慮して伐採したものであります。また、エンジュの欠木のほとんどが枯れたことによるもので、その原因は、比較的日当たりのいい箇所から枯れており、樹木自体に縦割れが見られることから、ここ数年続く猛暑の影響を受けたものと思っております。

また、植栽升にはササが植栽されております。エンジュよりもササのほうが多く吸水することから、水枯れを起こしており、エンジュの根茎の生育不良が考えられます。

このような街路樹の管理をめぐる対策は、全国的に課題となっております。その例として、大阪府が30年度から3カ年かけて約9,000本の街路樹を撤去し、植えかえるのは約6割にとどめ、インフラとしての更新・再整備を行う事例などもございます。

本村におきましても、現状植栽升スペースを花壇として再利用する方法も検討いたしました。現状では抜根していないことから、その作業にかかる費用や今後の維持管理費用にかかります費用対効果から実施することが困難であると判断しております。

今後、周辺の景観や歩行者の安全性に支障を来す問題が生じた場合には、舗装工事の施工や根の周囲をふたで覆うことなどにより対応してまいりたいというふうに考えております。

一方、オレンジロードの周辺には、小中学校や子育て環境のモデルエリアが隣接しておりますので、当該道路は本村のシンボリックな役割を担っていることから、その周辺環境維持に十分配慮する必要があると感じておりますので、今後とも検討してまいりたいことを申し上げます。

○議長（川崎和夫君） 村長 金森勝雄君。

○村長（金森勝雄君） 5番明和議員の、今後の村医療についてのご質問にお答えをいたします。

議員が指摘されたとおり、舟橋クリニックが今年3月をもって閉院されます。これま

で、本村の小中学校の学校医をはじめ、国保運営協議会委員や健康づくり推進協議会委員など村民の健康増進事業に多大なご尽力をいただいてまいりましたが、このたび高年齢のことや患者数の減少等の理由から閉院されるということ、昨年12月末、安達先生から伺っておりました。

このことを受けまして、今年1月には、舟橋小中学校医を富山市の医師に、本村の医療行政に係る各種協議会委員の選任に当たっては中新川郡医師会に依頼し、承諾を得たところであります。

ご質問にあります本村から診療所がなくなる影響についてであります。ご承知のとおり、我が日本は、世界に誇るフリーアクセスという医療制度を保持しておりまして、一部のヨーロッパで実施されているように、一般の人が診療を受けることができる医師が決まっていないことから、国民等しくさまざまな医療行為を受けることができます。

また、本村の近隣の市町には総合病院や専門科の診療所があることから、村民のかかりつけの医師が多方面に広がり、上市町、立山町、滑川市、富山市の病院や診療所を利用している方が多数おいでになりますので、大きな影響がないものと考えております。

一方、本村では、富山地方鉄道以外にバスなどの公共交通手段がないことから、将来的に高齢者の増加が見込まれる中で、福祉医療等に係る対応が大切であると思っております。

これまで、医療コンサルを通じて医師の誘致や金融機関へ医師の紹介依頼、さらには県内医療機関の勤務医に直接ヒアリング等を実施してまいりましたが、まだ実現に至っていないのが今の状態です。

今後も引き続き診療医師の誘致に向けて取り組んでまいりますので、ご理解をお願い申し上げます。